

**外来化学療法中の患者支援体制に関する検討
～薬剤師の立場から～**

研究分担者 石丸博雅 聖路加国際病院 薬剤部

研究要旨

聖路加国際病院オンコロジーセンターにおいて行われている外来化学療法に關与している薬剤師 35 名を対象として、外来化学療法中の患者支援体制に関するアンケート調査を行い、13 名より回答を得た。外来化学療法中の患者から電話相談を受けたことがある薬剤師は 4 名(31%)と多くなく、頻度も少なかった。内容は服薬に関することが主で、服薬に關連する食事の問い合わせがそれに続いていた。ほとんどの症例が、電話対応のみで対応可能であり、医師と相談して対応していた。定期受診時に相談を受けたことのある薬剤師も 3 名(23%)認められたが、頻度は月 1-2 回程度であった。しかし、相談内容の中にはすぐに対応した方が良かったものが含まれており、服薬に關連する判断に迷う場合の対処方法や緊急連絡先を整備する必要性が考えられた。

A. 研究目的

外来化学療法では離院後何らかの問題が生じた場合、患者は自ら症状を判断して行動することが求められる。医療機関側には患者の自己管理を支える仕組みの構築が必要となる。しかし、当院の現状では、各診療科により患者対応や患者教育内容も統一されておらず、患者の自己管理支援体制は十分に確立しているとは言えない。そこで、聖路加国際病院において外来通院で抗がん剤治療を行う患者に対する薬剤師の立場からの支援体制の現状を把握し、問題点を明らかとするために、外来化学療法を行う薬剤師に対して横断的観察研究として、アンケート調査を行った。

B. 研究方法

聖路加国際病院オンコロジーセンターにおいて行われている外来化学療法に關与している

薬剤師を対象として、横断的観察研究として 2013 年 2 月の 1 か月間にアンケート調査を施行した。対象選択基準は(1) 聖路加国際病院に勤務する薬剤師、(2)口頭による同意が得られている、(3)日本語で記載された質問紙を読むことができる、とした。

選択基準を満たす医療従事者に対しては、口頭で同意を得たうえで、アンケート用紙を渡し、医療従事者はアンケート用紙の提出を持って同意とした。

<倫理面への配慮>

アンケート用紙には、個人名は記載せず、診療科、性別、年齢(年代)のみの記載とした。また、結果は研究目的以外に使用することはない。臨床研究計画書を作成し、当院の臨床倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果、進捗状況

35名に対してアンケート用紙を配布し、計13名の薬剤師からアンケートに対する回答を得た。男性9名、女性4名、年齢は30代が6名で最も多く、次いで20代5名、40代2名であった。診療科は、乳腺外科8名、腫瘍内科5名、呼吸器内科2名、血液腫瘍科3名、未記入3名であった。ほとんどが化学療法調剤室の勤務であった。

外来化学療法中の患者から電話相談を受けたことがある薬剤師は4名(31%)と多くなく、頻度も少なかった。内容は服薬に関することが主で、服薬に関連する食事や生活一般の相談、副作用の症状と考えられる体調の相談がそれに続いていた。ほとんどの症例が、電話対応のみで対応可能であったが、受診を要すると考えられる相談もあった。ほとんどが医師と相談して対応していたが、看護師や他の薬剤師と相談して対応している場合もあった。対応に苦慮した症例も認められ、治療に用いた抗がん剤の副作用症状とその対策に関する内容であった。

電子メールでの相談を受けたことのある薬剤師はいなかった。

定期受診時に相談を受けたことのある薬剤師も3名(23%)認められたが、頻度は月1-2回程度と多くなかった。中には、相談内容にはすぐに対応した方が良かったものが含まれており、体調(嘔気・嘔吐、下痢、口内炎など)や服薬に関する内容であった。具体的には、薬剤内服後の嘔吐、嘔気のための内服困難、嘔気で食事摂取不可能な際の内服、内服し忘れた時の対応に関してであった。

その他自由記載では「発熱時、下痢時、嘔吐時などの統一した対応マニュアルの必要性」「服薬指導体制の検討」「もっと薬剤師が関わられる部分があるのではないか」などの問題と

問題提起がなされていた。

D. 考察

外来化学療法では、服薬に関連して判断に迷う状況が多く考えられる。例えば、内服後の嘔吐、嘔気や嘔吐のための服薬困難、食事摂取困難時の服薬、内服忘れの場合の対応、過剰内服の場合の対応、頓用薬内服方法などがあげられる。想定可能な状況については、あらかじめ指導することが可能であるだけでなく、対処方法に関していつでも閲覧可能なマニュアルを整備したり、緊急連絡先を整備したりすることにより、外来化学療法中の患者の支援体制を充実させることができると考えられ、その必要性和重要性が明らかとなった。

E. 研究発表

1)国内

1.論文発表

該当なし

2.学会発表

石丸博雅、橋本優希枝、高山 慎司、刈込博、川名賢一郎、櫻井美由紀、阿南節子、後藤一美 「6-メルカプトプリン水和物10%散の環境汚染状況調査」 第5回 JSOPP 学術大会 2013年2月 神戸

2)海外

1.論文発表

該当なし

2.学会発表

該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

